

Ⅲ. ウイルス性肝炎利用者の歯ブラシの消毒方法

歯磨き時や、入浴時等、介助時も手袋は必要なのか。⇒自己判断。

職員自身、その家族を守る為に、自分自身で注意すること。

Ⅳ. 園内感染委員ラウンド

①ラウンドチェック表を改訂する。

②感染委員ラウンド 南3・北3実施。

第3回目(9月26日)

Ⅰ. 西宮市感染症情報

特記すべき感染症の発症なし。

Ⅱ. グリッターバグ施行開始

①目的：手洗いの徹底 目標：評価4・5を目指す

②方法：1週間単位で次のフロアに回す。感染委員が職員それぞれのチェック日を決める。

Ⅲ. βラクタマーゼ産生菌(ESBL)の発生

南3階で2人検出。尿から感染する為、尿、体液の対応について注意が必要。南3階では下記対策を取って対応した。

- ・オムツ交換、入浴は最後で、1人になった状態でオムツ交換、入浴
- ・オムツ交換時、入浴時、尿汚染の可能性がある為、直接介助は手袋2重着用にエプロン使用に長靴(入浴時)使用
- ・オムツ交換後のパット類ボロ類はすべてしっかり締めて破棄。
- ・オムツ交換後はアルコール消毒(手や手すり等)
- ・尿汚染した衣類はビニールに入れ洗濯場へ
- ・万一尿に触れた場合はしっかり石鹸で洗い、アルコール消毒
- ・一日数回、ベッドサイドをアルコール消毒

Ⅳ. 結核について

①兵庫県は全国7番目に多い。昨年度87名発症している。

②夕方からの発熱・夜間の寝汗・2週間以上の咳には要注意。

Ⅴ. SARAYAの研修決定

①10/23(木)15時～16時『インフルエンザ・ノロウイルスについての研修』

②主に新人職員、パート職員に出席してもらうよう調整。

第4回目(11月28日)

Ⅰ. 風邪の流行について

風邪が流行しつつあるので、マスク、うがい、手洗いを徹底し、感染の拡大を防ぎましょう。

玄関先に手指消毒器を設置しているので、積極的に使用してください。

Ⅱ. ノロウイルス流行期に向けて

各フロア、ノロウイルス吐しゃ物対応キッドが揃っているか確認してください。

Ⅲ. グリッターバグ

継続中。終わり次第集計予定。

Ⅳ. βラクタマーゼ産生(ESBL)菌について

南3は現在なし。南2に1人検出。隔離対応中。

Ⅴ. 吐しゃ物の処理についての演習

12月に各フロアで行う予定。

VI. エボラ出血熱の流行について

西宮市保健所より、エボラ出血熱に関するアンケートが園に届きました。

内容：ゴーグルがあるか、感染用エプロンの着脱の講習を行っているか等。

第5回目(1月23日)

I. インフルエンザについて

①発生状況

西宮市内で1週間の間に314名感染。

②予防、対策、対応について

- ・感染者が出た場合は速やかに隔離をする。
- ・家族が発病した場合は、自身の体調に留意した上で勤務するか決める。
- ・自分が発病しなくても、人にうつす危険がある為、マスクを着用する。
- ・玄関の手洗い、うがいを徹底する。
- ・予防薬として、タミフルを1日2カプセル、3日間服用する。

第1～7回 緊急感染対策会議 1月9日～

インフルエンザ感染予防対策に関して適宜実施

II. ノロウイルスについて

①現時点でノロウイルスの発病者は出ていない。

②今後、定期的にノロウイルスの吐しゃ物の実習を行ってはどうか。

III. ウイルス性肝炎の食器等の消毒に関して

現在は各フロア毎にミルトン消毒を行っているが、消毒方法、ミルトンの濃度等が統一されていない為、看護部門で検討したうえで回答する。

IV. グリッターバグの結果発表

結果：下記参照。比較したものを表にまとめる。

- ・前年度と比較し、全体的に点数は高値。初めての人も点数が良かった。
- ・各部署によって点数のばらつきがあった。
- ・薬液の付け方、石鹸の種類によって採点結果が異なるのではないかな。
- ・出来るだけ効果のある手洗いをを行い、泡石鹸を使用するのが良いと思う。

V. 園内感染委員ラウンド

ノロウイルス吐しゃ物対応キッドがあるか確認する。各フロア実施。

第6回目(3月27日)

I. 西宮市感染症情報

インフルエンザ、感染性胃腸炎は終息に向かっている。

II. インフルエンザについて

①インフルエンザ対策について、看護課でマニュアル作成中。

②3月末日でウィルステラでの消毒と次亜塩素酸の拭き掃除は中止。通常通りに戻す。ウィルステラ消毒液及びその容器は事務所(倉庫)に返却する。

③インフルエンザ対策についての振り返りを各フロアで発表。

④今後、インフルエンザ発症好発時期に徹底しないといけないことが課題である。

- ・換気：部屋の換気を毎食時に、食堂の換気は利用者が居室に戻った時に行う。

(感染対策委員長が、必要と判断した場合に上記施行。それまでは各フロア、適宜)

- ・利用者の食前の手指消毒、手洗いの徹底
- ・マスクを着用してもらえ利用するには、着用を依頼する。
- ・隔離：原則必要で、不穏が強い人には家族の協力（面会・外泊等）を仰ぐ。必要最低限の隔離期間にする。
- ・面会：原則的には制限するが、家族の協力が必要と判断した場合は可能。ケースバイケースで対応する。
- ・インフルエンザ発症の初期段階で職員、利用者の予防薬服用が有効ではないか。

Ⅲ. 年間のまとめ

1. グリッターバグ 2回/年施行。
 - ①来年度も行う。新入職員のため。
2. 園内感染委員ラウンド 2回/年施行。(7月・1月)
 - ①ラウンドは来年度も行う。感染症予防の為、7月と11月が良い。
3. 勉強会の開催 2回/年施行。1回目：SARAYA が感染症についての講義
2回目：吐しゃ物処理方法についての実技演習
 - ①吐しゃ物演習は北3のみ実施できず。
 - ②利用者が嘔吐した時、手順に沿って対応出来なかったこともあり、何回も演習を行い、経験を積むことが大事。
 - ③吐しゃ物処理方法についての演習は、来年度も行う。

Ⅳ. ウイルス性肝炎の対応について

《決定事項》

- ①肝炎の利用者も同じ消毒液（ミルトン）につける。
- ②各フロアとも80倍希釈で約15分、歯ブラシ1日1回消毒に統一。

身体拘束廃止委員会

委員長：田中 純子（南館3階 係長）

委員：北野 奈津美（南館2階 援助員） 松岡 和美（北館3階 援助員）

中村 裕樹（北館2階 援助員） 柿坂 禎子（相談室 相談員）

吉田 瞳（リハビリテーション室 理学療法士）

各フロア・相談室・リハビリ科から計6名で構成され5月・7月・9月・12月・1月・3月の第一火曜日に会議を行いました。フロアでの現状を報告しています。他フロアの身体拘束解除にいたった事例が、ヒントにならないか、方法や経緯を参考にしています。

前年度実施した、サービス評価のアンケートで、「拘束を行わないための研修、周知徹底が図れているか」の項目に、いいえと分らないと答えた人を合わせると40名以上に上ったことを受け、現状と今後の対応について検討しました。

現状

- ・拘束に関する研修は行われていない。
- ・外部研修には委員が数名参加している。
- ・各フロア内で職員に、口頭で身体拘束になる行為について、同意書、記録方法、等の指導説明が行われている。

今後

- ・次年度新人研修に組み込んでもらう。
- ・園内研修を行う（今年度無理であれば次年度）

- ・今年度については、兵庫県の身体拘束廃止のハンドブックを各フロアに配布し、全職員が読んで学習することを義務とする。
- ・外部研修に参加した人は、援助員会議で研修報告をする。

兵庫県健康福祉部高齢社会局からの、施設における施錠管理の考え方の通達について

夜間以外で施錠管理をして他フロア等へ移動できないようにするのは拘束に当たり、緊急やむを得ないと認められるには拘束の同意書や記録など一連の手続きが必要とのこと。甲寿園では、エレベーター・階段室にスリーキーが設置されており、どういった場合が拘束にあたるのか、園より、西宮市に確認し、出たいといわれた場合、職員が付き添って降りているので、拘束に当たらないとの回答を頂きました。もし、外へ出たい、もしくはフロアに帰りたいのに帰ることができないようにした場合は、身体拘束に当たるので手続きを取るよう言われました。今後対象利用者がいないか検討が必要です。

インフルエンザ等感染症対策について

インフルエンザや他の感染症に罹患し、多動で他の利用者に広める可能性が高く、緊急に施錠や4本柵等の拘束の必要がある場合、感染を広めないことを優先し、電話で家人の同意を得た後、同意書を頂きました。また、拘束を外せるよう、一人を集中的に見ていき外せるよう取り組むことをしました。

安全衛生委員会

- 委員長：丸山 壽美子（北館2階係長）
 委員：竹内 正（医師）
 木村 英樹（北館3階 副主任）
 樋口 亜美（南館2階）
 澤野 清美（南館3階）
 小田 浩美（作業療法士 主任）

今年度6回の会議を開催。利用者の方が安全安楽に生活できて、職員が健康で安全に長く働けることを目的に、フロアの現状を話し合い、改善に向けての話し合いをすすめました。第1回目の会議で竹内医師からの整理・整頓・清潔・清掃が大事との意見で、各フロアで整理・整頓・清潔・清掃を目標に委員を先頭に環境整備を進めて行く事としました。

腰痛休業者が出ないように、蓄積疲労を軽減するためには、移乗、おむつ交換、体位交換、足元側へずれた体の引き上げ等の職員の負担軽減につながる為、スライディングボード・スライディンググローブ等も購入して頂き、活用を試みたが十分に使用されたとは言えない現状でした。おむつ交換時・体位交換時にベッドの上下ができないものもあり、介護しやすい高さに調整できないので随時購入もしていただくように進めたいと思います。

リフトの使用状況は、各フロアや職員によってちがいはあるが、年度当初より使用が広がり利用者の方の安全な移乗や職員の負担軽減につながっていると思われれます。次年度に向けてリフトの使用をより進めていくためには、毎年少しずつではあるが職員の入れ替わりがあるのでリハビリ器具やリフトの使用法の研修をしていく必要があります。

次年度もご利用者様が安心してよりよい介護をうけるために、今後も職員が安全に働きやすい職場環境作りも共に考えていくことが必要だと思われれます。そして職員一人一人が自分にも目を向け、健康で長く働ける体調管理をしていく事が必要だと思われれます。

防災委員会

防火管理者：中野 由理（副園長）
委員長：平野 徳一（北館2階 主任）
委員：川崎 真吾（北館3階 主任） 石川 幸男（南館3階 援助員）
和田 昂（北館2階 援助員） 空 信次（デイサービス 援助員）
江副 隆（設備）

平成26年度は前年度までの火災の避難訓練に加え、図上訓練での土砂、大地震災害時の対応想定訓練を行いました。【訓練報告参照】

もう一つの取り組みとして設備の点検（各フロアのコンセントの破損個所の点検・交換やコンセントやPC周りの埃を除去するなど）を行い出火の危険個所の見直しも前年同様に、継続して注意していきました。

日頃に準備、心構えをすることで災害時に利用者の安全を最大限に確保できるよう努力していきます。

●避難訓練報告

訓練① 訓練日時：平成26年8月13日（水）【消防立会い訓練】

出火想定場所：甲寿園南館2階食堂

出火想定時間：14:30頃

調理コンロから出火。初期消火失敗。消防へ通報という設定で訓練を行う。

訓練は概ね順調に終了。合同避難訓練終了後、消防署職員による講評を受け、放送時ははっきり、分かりやすく行う。応援者への指示は的確に行う、という内容のご指導をいただきました。

消防署職員による防災教室に参加し消火器、消火栓の使用方法を学ぶ。

訓練② 訓練日時：平成26年10月8日（水）【にしのみや苑合同、夜間想定】

出火想定場所：甲寿園南館3階配膳室 コンセントによる漏電。

出火想定時間：2:00頃（14:00訓練）

配膳室コンセントから出火。初期消火失敗。消防へ通報という設定で訓練を行う。

概ねスムーズな避難誘導が行えていた、避難完了時間は7、8分だった。消防署職員による講評を受け避難経路は、出火現場を避けるように、消防からの折り返しの電話は聞かれたことに返答すればよい。という内容のご指導をいただきました。

訓練③ 訓練日時：平成27年1月14日（水）【図上訓練】

甲寿園で起こりうる災害を考え、災害時の被害状況、対応等を時間ごとで、想定し、対応を考える訓練を行う。

火災・土砂・大地震で訓練を行う。被害、行動を想像する事により災害時の心構え、対応に繋がるのではと手ごたえを感じる。

また、継続して行うことにより職員に対応力がつくと思われ、来年度も実施予定をたてる。

●第42回自衛消防隊消防操法大会報告

大会日時：平成26年10月15日

出場者：金子将之（北山学園） 川田将史（甲寿園）

・今年度は、北山学園と合同で消防操法大会（屋内消火栓操法の部）に出場しました。

残暑厳しい中、西宮瓦木消防署甲東分署の協力を得て練習を重ね社会福祉法人甲山福祉センターの代表とし健闘しました。

PC 委員会

委員長：柳田 賢二（北館 2 階 主任）

委員：豊浦 健一（南館 2 階 援助員）

木村 英樹（北館 3 階 副主任）

多胡 亜季（南館 3 階 援助員）

丸山 ゆかり（デイサービス 援助員）

八木 良子（看護師）

開催日 奇数月第 2 水曜日 15:30 ～

【会議まとめ】

【5月】

- ・精神科往診が開始するに当たり記録の入力について検討。
日勤帯・夜間帯での精神的な事項は気分行動で入力することに統一
- ・家族様が持込みされた食事に関して特別な場合には入力
- ・看護サマリーは、カンファレンス時 ADL に変化があった場合に随時更新。
- ・看護課で行っていた受診時・往診時に処方された薬の薬名入力を行わない

【7月】

- ・パソコン委員会の報告書は PC 内で管理
- ・パソコン内に保存しているデータで特に大切なものについては USB メモリで別に保存を行う
- ・夜間帯の眠前薬（点眼薬）の入力は今後廃止。
突発的な事（例えば頓服薬服用や、悪化によるアズノール塗布、拒薬等）があれば適宜入力

【11月】

- ・体重測定の入力についてフロアで違いがあったので統一
絆 ⇒ 「健康管理」 ⇒ 「健康診断」 の項目に数字を入力
- ・口腔ケア：山口歯科の項目を追加し継続
- ・医療の記録を整理し簡略化したが、各フロア問題ないためそのまま継続
- ・入浴について・・・基本は中介助が記録を行うが、業務やフロアの状況によって記録者の変更も可能。
→ 特変があった時には詳しく入力しあとの方は凡例でも良い。フロアで対応。

【1月】

- ・事情により開催せず

【3月】

- ・来年度に向け：引き続き記録内容の充実と時間の短時間化をテーマに取り組む

【全体まとめ】

昨年度に引き継ぎパソコン入力に関して施設内での統一に努めました。

検討を重ねることによってどの部署も少しずつ改善が進んだ 1 年となりました。

今後もパソコンでの内容の濃い記録が残せるように委員会を中心に努力していきたいと思ひます。

リスクマネジメント委員会

平成 26 年度委員

委員長：石原 美香（南館 2 階 係長）

委員：杉山 吉秋（ケアマネジャー） 高川 久美子（ケアマネジャー）

伊原 雄子（看護師） 平野 徳一（北館 2 階 主任）

伊澤 雅記（南館 3 階 援助員） 山下 直史（北館 3 階 援助員）

【5月】

- 各フロアの事故報告、ヒヤリハット報告を行いました。同じ御利用者様が、何度か表皮剥離を繰り返されていること、固形石鹸を異食されたこと、センサーマットの電源の付け忘れによる転倒、スリッパを履いて歩いておられる御利用者様の転倒、新人職員による介護ミスなどが挙がりました。職員のミスで事故を起こさないように、センサーマットの電源の付け忘れ等再度注意するよう、各フロアに呼びかけました。
- 夜間転倒し、御利用者様から痛みの訴えがあったにもかかわらず、医師への状態報告が、朝になってしまったことがありました。特変時の医師への報告の徹底を、フロアで再確認を行っています。また、看護師からは、医師への連絡の重要性の確認、事故後 24 時間の記録の徹底、下腿の剥離については、フットレストが外れる車いすの購入を勧める等の意見が出ました。

【7月】

- 各フロアの事故報告、ヒヤリハット報告を行いました。御利用者間の口論、トラブルが発生していると報告がありました。（平手で背中を叩くこともあり）職員が両者のお話を傾聴し、気分を落ち着かせて頂く対応をしています。
- 誤薬の事故で御家族様への報告は済んでいましたが、相談室や事務所への連絡を行っていません。大きな事故、薬絡みの事故は、すぐに相談室と事務所に報告をする。また、誤薬の事故は朝に多く、夜勤職員の疲れがピークに達している時間帯である為、より慎重な気持ちで介護を行うようにすることを確認しました。その他、車いすからのずり落ち、表皮剥離、カーテンやボタン、スポンジブラシ等の異食などが挙がりました。

【9月】

- 各フロアの事故報告、ヒヤリハット報告を行いました。転倒、ずり落ち、表皮剥離、打撲等が挙がりました。全体的に立位が不安定な御利用者様の立ち上がりで、転倒事故に繋がっているものが多くありました。各フロア、センサーマットや見守り、場合によっては、見守りが出来ない時間帯のみ安全ベルトをさせて頂きながら、事故を未然に防いでいくようにしています。
- 車いす移乗やベッド移乗の際はリフト使用を徹底させていますが、浴室までは徹底出来ていません。浴室もリフト使用を広め、事故防止に努めていきたい。また、浴室では、足し湯で湯船の温度が上がったことにより、御利用者様がのぼせてしまった事故がありました。御利用者様が湯船に浸かっておられる際は、足し湯をしないようにすることとなりました。
- 各フロアにリフトの使用を勧め、またリフト使用時は、上がり始めにリフトシートのフックが外れることがあるので、改めて注意して使用するよう呼びかけました。

【11月】

- 各フロアの事故報告、ヒヤリハット報告を行いました。トイレでの転倒事故、低血糖を起因とする転倒事故、服薬事故、利用者間トラブル等が挙がっていました。その中で特に職員が注意していかなければいけない、大きな事故に繋がるものとしては、特浴槽のストレッチャー事故がありました。機械の小さな確認ミスで、大きな事故に繋がることを改めて実感した事故でした。一つ一つ確認し、慎重に丁寧に操作していかなければならないことを、委員と各フロアで再確認しました。
- 看護師より、精神疾患の方への対応について、薬の増減で御利用者様に負担がかかり、ADLの低下に繋がることを改めて考えて欲しいと依頼がありました。また、精神科への受診を医師へ依頼する場合、フロアでの意見を統一して欲しいとのことでした。適切な受診や服薬も大事ですが、それ以外で出来るフロアでの対応も考えていく必要が

あると話し合いをしました。

- ケアマネージャーより、ヒューマンファクターエラーについて、資料を見ながら説明を受けました。ヒューマンファクターとは、錯覚、不注意、近道行為、省略行為に代表される、人間の4つの行動特性とのこと。人間のミスや不注意が結果として事故や災害につながった場合、これをヒューマンエラーと呼びます。この人間の特性を理解し、ヒューマンエラーを未然に防いでいくことが大事だと話し合いました。
- 御家族様への事故報告に関して、明らかに自分の過失が原因による事故は、原因を作った職員が報告、謝罪すること。その他の事故は、担当職員がすることになりました。

【1月】

- 各フロアの事故報告、ヒヤリハット報告を行いました。転倒事故が多く挙がっていました。その中でも、各フロア、センサーマットの電源の点け忘れで起きた事故が多く、これは職員の確認ミスによる事故であり、防げる事故だということを再確認しました。
- 安全に爪切りを行う為に、看護師から「魚の目トット」を購入してはと案が出ました。その後購入し、各フロアで使用しています。
- 車いすのフットレストで起こる事故については、車いすのフットレストをきちんと上げて使用する。また、跳ね上げ式の車いすもきちんと上げて移乗を行う事を再確認しています。
- その他、車いすのアームレストが下りたままになっていた件や、御利用者様の枕の下に敷いてあるバスタオルに待ち針が刺さっていたヒヤリハット等が挙がっていました。原因をフロアで追及、再発防止に努めています。

【3月】

- 各フロアの事故報告、ヒヤリハット報告を行いました。環境整備や低床ベッドのL字柵に変更した結果、転倒事故が激減したフロアがありました。また、あるフロアからは、精神科療養が必要な御利用者様のトラブルも多く挙げられました。同じく精神的不安定な御利用者様が、帰宅願望がある為、ベランダに数回出られるヒヤリハットも挙がっていました。居室変更や、環境整備を行うことで、事故は防げているとのことでした。
- 御家族様への報告について、ボードを使用したり、事故報告を仕分けすることによって、以前よりスムーズに行えるよう改善は出来ているが、まだまだ完璧ではない為、引き続き改善は必要。「御家族様の来園時に報告する」という記載が多いが、実際来園が遅くなり、なかなか報告出来ないケースあるので、引き続き報告方法を検討していく。

【まとめ】

この一年も、全体的に一番多かった事故は転倒事故でした。昨年度に引き続き、立位の不安定な方が立ち上がられ、転倒事故に繋がったケースが多くありました。以前と比べ、センサーマットの使用も増え、そのことによって防げた事故も多くあります。しかし、一方では、センサーマットのコールが鳴り続け、他の御利用者様の対応に遅れてしまったり、夜間帯で一人体制の時間に、同時に鳴った場合の対応など、まだまだ課題はたくさんあります。御利用者様が安全に、そして、甲寿園でのそれぞれの生活が、自由で快適に過ごせる場所である為に、御家族様の御理解を頂きながら、安全対策を行っていきたいと思っています。

また、事故が起こってしまった時の各職種の連携、御家族様への連絡も、引き続き徹底していけるよう、委員を中心に呼びかけていきたいと思います。そして、何度も起こってしまう事故に対しては、カンファレンスを行い、あらゆる角度から検討し、事故の原因と対策を探っていけたらと思います。

排泄委員会 まとめ

平成 26 年度排泄委員

委員長：川崎 真吾（北館 3 階 主任）

委員：松村 美香（南館 3 階 援助員）

行 早苗（南館 2 階 援助員） 石田 喜之（南館 2 階 援助員）

松野 綾（北館 2 階 援助員）

●年間報告

- ・一年を通して、少しでも快適に過ごして頂けるように、適切な排泄用品を使用して頂けるように、適宜見直しを行ってきました。
- ・オムツの使用方法について、研修委員会に依頼して、ネピアの職員に勉強会を開いて頂きました。来年度以降も勉強会を続けて行きたいと思えます。
- ・オムツ交換表を作成して、誰がどのパットを使うのかを分かりやすくしています。
- ・オムツ外しをされる利用者や、尿漏れの多い利用者があるので、そのような利用者への対応方法（時間・使用するパット、当て方等）を引き続き検討していきたいと思えます。

●27年度に向けて

- ・排泄委員会が中心となり、各ご利用様様の排泄パターンや尿量を把握して、適切な排泄用品を使用して頂けるように検討する。快適な生活を提供するため無駄なオムツの使用を減らして、ご利用様様の自立支援に繋げたいと思えます。

研修委員会

委員長：高本 竜太郎（北館3階 係長）

委員：伊地知 純平（南館2階 援助員） 平山 敦子（北館2階 援助員）
伊藤 尚一（南館3階 援助員） 高田健太郎（デイサービス 相談員）
西岡 直子（看護師）

開催日 毎週第4木曜日 15:30～

【園内研修まとめ】

4月	事業方針説明会	講師：狭間園長
5月	緊急時の援助の手引き	講師：高本係長
6月	栄養補助食品が必要な方への提供のポイントについて	講師：アボットジャパン
7月	オムツの構造について、排泄援助の際の留意点など	講師：王子ネピア
8月	ソフト食について	講師：小崎管理栄養士
9月	園内実践研究発表会	
10月	感染ルートの遮断	講師：S A R A Y A
11月	法人事例研究発表会	
12月	21老福連第 第14回職員研究交流集会	
2月	音楽療法的レクリエーション研修	講師：米津多美先生
3月	研修担当者研修（外部研修報告）	報告者：高本係長

【まとめ】

今年度の研修内容は主に生活援助に密接した内容が多かった。

研修に於いて課題であった【参加出来ない職員も多くいる】という点についても各フロアで勤務調整に尽力いただいたおかげで園内研修だけにとどまらず外部研修等も含め広く研修に参加できる機会が増えたのではないかとと思われる。

26年度を前に、全フロアから『受けてみたい研修・興味のある研修』等のアンケートから集まった回答を基に26年度は年間計画を立案し、園内研修の充実を図るとともに外部研修への積極的な参加を働きかけ、各職員のスキル向上に役立てられるようすすめていきたい。

そして新たに音楽療法を取り入れた実践型の研修を行い、研修内容がいかに現場へ還元されているかを明確化させていきたい。



ボランティアクラブ活動の状況

甲寿園の長い歴史は、ボランティアの皆様と歩んできた歴史といえます。長きにわたり継続してボランティア活動をしてくださる団体の皆様をはじめ、ご自身の大切な時間を割いて甲寿園の利用者の皆様の為に楽しい時間を届けてくださる皆様。そして、甲寿園の利用者の方々の生活を職員とともに守ってくださる皆様。多くのボランティア活動に甲寿園は支えられてまいりました。感謝と「これからもよろしく願います」の気持ちを込めて、ボランティア活動の紹介をさせていただきます。

個人・団体名	活動状況	
火曜会 様	リネン交換 毎週火曜日・4回 あいあい喫茶・運営 第2・4火曜日	週一回火曜日のリネン交換を長年担っていただいております。利用者の方々にとって、大切な生活の場を丁寧に整えてくださる火曜会の皆様の活動にこころより感謝を申し上げます。加えてあいあい喫茶の運営や催し物のお手伝い等、多岐にわたって活躍いただいております。
西宮市社会福祉協議会甲陽園分区分 ボランティアセンター 様 (喫茶ボランティア・歌の出前)	あいあい喫茶・運営 第1・3火曜日 外出付き添い 利用者とのふれあい	火曜日のあいあいホールでの喫茶は、利用者の方々の生活にとって、欠かせないものとなっています。喫茶運営において利用者の方々の好みに沿った配慮をいただいております。喫茶の折の催し物においても、「歌の出前」の皆様が活躍して下さっています
カットサークルクローバー 様 岡本 光代 様	理容・美容 (散髪) 第1月曜日	月の初めの第一月曜日、カットサークルクローバーの皆さんが、甲寿園に来園して下さいます。各フロアに出向き、お一人お一人利用者の方々に向き合い、活動をしていただいております。カットをしながらのおしゃべりも、利用者の方々は、とても楽しみにしておられます
辯天宗兵庫教区婦人部 橋本 禮子 様	カット布作り	定期的に、古布のカットのボランティアに来ていただいております。やさしくカットされた布はフロアで使用しております。
金光教今津教会 西中 保彦 様	カット布作り	古布を、協会の皆様で使いやすいようカットし、甲寿園に届けて下さっています。心配りに感謝です。
夙川学院高等学校ボランティア部 様	利用者とのふれあい	春の花の日の「花束」秋の収穫祭の「果物」ボランティア部の生徒さんが、自ら足を運んで届けて下さいます。受け取る利用者の方々も、その優しい気持ちに感謝しておられます。
安井保育所・安井さくら保育所 様	利用者とのふれあい 歌 遊戯	「こんにちは」山に登ってきてくれる元気な子どもたちです。お山のおじいちゃん・おばあちゃんの為に得意技を披露してくれます。
夙川学院短大附属幼稚園 様	利用者とのふれあい 歌 遊戯	毎年9月、甲寿園に可愛い訪問者が来てくれます。ホールに集まっておられる利用者の方々の中に入り、握手をしたり優しく歌ってくれたり、笑顔満開です。
国際ソロプチミスト神戸東 様	ご寄贈 あいあいホールでの舞台	毎年6月に、ソロプチミスト神戸東の会員の皆様と、芦屋大学付属中学・高校の学生さんが甲寿園を訪問して下さいます。バイオリン・ピアノ・声楽といったクラシック音楽から、学生の方々の元気なチャイロディンギングまで幅広い催しに利用者の方々は満足です。
廣田の杜合唱団・ 歌声サロン 越木岩 岡崎 紘一郎 様	コーラス 年4回	岡崎先生の指揮のもと、年4回訪問演奏していただいております。生の迫力あるコーラスを聴くだけではなく、岡崎先生の指揮に合わせて利用者の方々が大きく合唱されています。
車椅子レクダンス普及会 (矢車草の会) 宝塚支部会長 今井 豊彦 様	奇数月 年6回	奇数月の木曜日、あいあいホールはダンスの素敵な音楽に包まれます。車いすに乗っていてもダンスを楽しむ事の出来る喜びに、利用者の方は生き生きとされています。今井先生の指導の下、踊りの輪が広がります。

宮水学園 様	民舞	民謡コーラス・民舞と、宮水学園のいろいろなグループが訪問して下っています。華やかな踊り、迫力ある歌で利用者の方々を楽しませてくださいます。
さくら 悦子 様 (歌手)	歌謡	あいあいホールで素敵な歌謡ショーが始まります。さくら悦子さんの歌声に皆さん引き込まれ、体も心も歌を聴く喜びに包まれます。楽しいお喋りにも引き込まれ楽しい時間が過ぎていきます。
山崎 戸始子様 (舞踊)	日本舞踊 他	毎月第3火曜日には、山崎さんの素敵な踊りを楽しみます。日本の踊りだけでなく中東・南米・いえいえ世界各国の民族舞踊をアレンジして踊ってくださいます。甲寿園のホールに居ながらにして、世界一周の旅も味わえます。利用者の方々の笑顔がはじけます。
神戸キリスト栄光教会 様	12月 クリスマス	コンサート・踊りと讃美歌、そして利用者の方々へのプレゼントと、ホールでの恒例のクリスマスの催しとなっています。
末日聖徒 イエスキリスト教会 様	12月 クリスマス	12月、趣向を凝らした催しと、素敵な手作り作品をフロアを順次まわりプレゼントして下さいます
日本ボーイスカウト兵庫連盟 西宮 様	清掃活動	ボーイスカウトの活動の一つとして、甲寿園に年1回清掃の活動に来てくださいます。
西宮市民踊協会 田近 和子 様	盆踊り大会	甲寿園夏の恒例行事「盆踊り」において、毎年踊りを指導して下さり、自ら踊りを披露して下さっています。踊りの輪の中で民踊協会の方が踊ってくださるのを見ながら、利用者の皆さんやご家族さんも輪に入り、踊りの輪がどんどん大きくなって華やかになります。
西宮カウンセリング研究会 長安 賢治 様	お話ボランティア 偶数月	偶数月に、お二人ずつ甲寿園に来園して下さり、フロアに出向いて、利用者お一人お一人のお話を丁寧に聴いて下さっています。 ゆっくりとゆったりと昔のお話や、今の生活のお話を聞き取って下さっています
グループつくしんぼ 大野 慶子 様	車椅子のご寄付	長年にわたり、車いすの寄贈をしていただいております。
タンテ・ジラソーレ 黒川 さとみ 様	アコーディオン演奏 年2回	アコーディオンを携えて春と秋の年2回、甲寿園へ演奏に来てくださいます。100曲以上のレパートリーから、利用者の方々のリクエストに即応して下さり、会場は大盛り上がりです。演奏の最後は「六甲おろし」の大合唱です。
NPO 法人 ゆーあい 様	音楽ボランティア	月1回、素敵な音楽を届けてくださいます。利用者の方の懐かしい曲、故郷を思う曲、心を込めて歌にのせ、届けていただいております。
スウィート・ボイス 様	コーラス	宮本由佳子様の指揮のもと、素敵なコーラスを披露して下さいます。甲寿園にお迎えするのも4回余り、そのたびに優しい歌は広がり、利用者の方々の心に響いております。
園田学園 中・高 吹奏楽部 様	吹奏楽	毎年貴重な春休みの一日使い、甲寿園に演奏に来てくださいます。杉江先生の指揮のもと、迫力のある演奏を学生の皆さんが趣向を凝らして披露して下さいます。
クラリネットミューズ 様	クラリネットアンサンブル	珍しいクラリネットアンサンブル演奏を八巻玲子様を代表にクラリネットの女神たちが、披露して下さいます。優しい響きは聞いている利用者の方々の心を打ちみんなどうっとりと時間を過ごしました。
榎谷 郁夫 様	ハーモニカ演奏	ハーモニカを演奏で、懐かしい音楽を奏でて下さいました。ハーモニカについてのお話も交えながらのひと時でした。
コーロシンセラ 福岡 知子 様	コーラス	お歌の好きな仲間が集まってコーラスを届けてくださいました。「明るく楽しい歌声で元気をお届け」がモットーです。

アンサンブル SocoSoco	コーラス	岡崎よしこ先生率いる「ぐるっぼユーモア」のアンサンブルソコソコが素敵な歌声を、プレゼントしてくださいました。
森田 治子 様	ピアノと歌（デイ）	季節の歌・懐かしい唱歌等バラエティーにとんだ選曲による歌を携えて、デイを訪問していただきます。
竹内 倫美子 様 長谷川 慶子 様	フルートとピアノ	フルート演奏の竹内様とピアノ伴奏の長谷川様のお二人で素敵なフルートコンサートを披露してくださいました。利用者の方々も懐かしい歌を口ずさみ、楽しいひと時を過ごしました。
田中 澄子 様	生活支援	甲寿園のOGとして多岐にわたり活動をしていただいています。豊富な知識と経験により利用者の方々に細やかな生活支援をしてくださっています。
田中 健 様	生活支援	利用者の生活事の困りごとの支援や、日々の何気ない生活支援を細やかにしてくださっています。外出のお手伝いもしていただいています。
竹内 美希 様 奥村 悦子 様	生花	毎週火曜日に生花のクラブ活動のお手伝いをしてくださっています。利用者の方々のお話をやさしく聞きながら、一緒に花を活け、楽しい時間と空間を作ってくださいています。
大島 佳世 様 奥田 美佐子 様	生活支援	生活支援をしてくださっています。利用者のご家族様でもあり催しの時など、頼もしい助っ人として活躍いただいております。

【クラブ活動のご指導】

ク ラ ブ 名	指 導 者	開 催 日
書 道	宍戸 與七郎 様	第2 第4月曜日 月に2回、弟子の皆様と共に指導して下っています。大筆でのびやかに、小筆で繊細にと個々にあった指導で皆さん楽しんでおられます。
生 け 花	【職員】	火曜日 利用者の方は、月2回生け花クラブに参加しておられます
陶 芸	稲松 麻利子 様	第1 第3水曜日 無心に土に向かっておられる利用者の方々の手から、素敵な作品が出来てきます。稲松先生の指導のもと甲寿園の釜で思い思いの器が焼き上がります。
七 宝 焼	【職員】	第2 第4水曜日
大 正 琴	【職員】	第1 第3水曜日
手 芸	【職員】	随時
編 み 物	【職員】	随時
書道(デイ)	加藤 真子 様 第1 第3火曜 森井 さや夏 様 第2 第4水曜	お二人の先生に、指導・添削して頂き、デイの書道の時間は、あっという間に過ぎていきます。作品を持って帰るのも楽しみの一つです。